

科目ナンバリング：DIS-1-351-04

国際学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「基礎知識」を身につける為の科目

### ■授業の目的及び到達目標

本授業の目的は、中学校社会科の世界史に関わる内容あるいは高等学校の世界史A・Bの内容を指導することを前提に、歴史的な見方・考え方を働かせて具体的な歴史事象を通して理解することである。世界史の関わる事象を教える際の歴史的な見方・考え方を理解し、世界史学習の意義を自分なりに表現できることを到達目標とする。

### ■授業計画

- 1 茶・砂糖と大西洋経済  
大西洋経済の特質を、茶や砂糖といったモノに着目して理解する。
- 2 世界史上のフランス革命  
世界史におけるフランス革命の位置づけについて考察する。
- 3 イギリス産業革命と世界  
イギリス産業革命の契機や影響を、世界史の経済的な動きと関連付けて理解する。
- 4 国民国家の形成  
19世紀後半期の欧米諸国がたどる国民国家形成の動きを比較して考察する。
- 5 世界史の中の日本の「開国」  
日本の「開国」を世界の動向と関連付けて同時代的に理解する。
- 6 岩倉使節団と世界  
岩倉使節団の動きに着目して、世界史の中の日本の針路について考察する。
- 7 帝国主義と人種主義  
帝国主義の時代に人種主義が台頭した背景を、資料を活用しながら考察する。
- 8 20世紀前半のファシズム  
20世紀前半の世界の動向と社会の特質について、ファシズムの台頭に着目して考察する。
- 9 第二次世界大戦と世界史  
第二次世界大戦の終結までの動きを、大戦前の世界史の動向と関連付けて理解する。
- 10 戦後世界の形成とアメリカ  
アメリカが戦後世界をリードする過程をたどりながら、大国の役割について考察する。
- 11 科学技術と世界史  
科学技術の進歩がもつ二面性について、具体例を挙げて考察する。
- 12 ESDの視点と世界史  
ESDの視点を取り入れた世界史の学びの意義について、実践例を通じて理解する。
- 13 環境の視点と世界史  
環境の視点を取り入れた世界史の学びの意義について、実践例を通じて理解する。
- 14 「歴史総合」と世界史  
新設科目「歴史総合」における世界史の学びの役割について考察する。
- 15 後期の学修の総括  
学期試験と試験後のフィードバックとしての解説を通して、世界史学習の意義について各自が考察する。

### ■授業の方法

講義だけでなく、ワークや発表などの演習を取り入れて授業を進める。世界史学習の基本的事項の理解にとどまらず、世界史を教える立場から歴史的な見方・考え方を働かせて考える場面を多く設定する。

### ■予習・復習

予習：授業で扱う単元内容を、教科書を事前に読んで確認・整理する。

復習：毎回の授業内容を整理し、授業で取り上げる場合のポイントをまとめるとともに、追究課題を記入する。

### ■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

学期試験60%、予習・復習を含む課題や演習などの授業中の取組状況を40%として、それらを総合的に評価する。演習では毎回事後に解説を行うとともに、試験後もフィードバックとして解説を行う。

### ■教科書・参考書

教科書：高等学校教科書「世界史B」、中学校教科書「新しい歴史」（東京書籍）

参考書：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』、その他は授業中に指示する。

### ■関連する科目

「社会科・地理歴史科教育法」「国際政治史」「国際関係論」「日本外交史」などの修得が望ましい。

### ■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

講義を担当する前田達見は東京都立高校で地理歴史科の教員として世界史を指導した実績を持っている。また世界史の学習教材や教員向けの指導資料などを執筆・作成した実績も持っており、こうした実績を当該科目での指導に活かしていく。